

Newsletter 5

November 2025 no. 5

CCI 文部科学省科学研究補助金
基盤研究 (S)

アフリカ狩猟採集民・農牧民の
コンタクトゾーンにおける子育ての
生態学的未来構築



CCI Grant-in-Aid for Scientific Research (S)

Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers and agro-pastoralists in Africa



目次 Contents

特集

ボツワナワークショップ報告…………… 03

活動報告

狩猟採集民/バカの人々が日本にやってきました！ …… 07

海外派遣報告 …… 08

主な業績 …… 09

受賞/関連イベント …… 11

事務局より/表紙を語る …… 13

本プロジェクトウェブサイトのお知らせ

アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築



<https://www.cci.jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/efm/>

特集

ボツワナワークショップ報告

2025年10月29-30日にかけて、GhanziおよびNewXadeで
“Study of future making among the Batswana in contact zones”を実施しました。

ボツワナには様々な民族集団が存在し、それらが複雑なコンタクトの過程を経てきました。コンタクトが生じた地域や状況は、それに関わった民族集団や個人に多様な結果をもたらします。そこで、私たちの研究プロジェクト“Study of future making among the Batswana in contact zones”では、多様な文化が交わる「コンタクト・ゾーン」に特に注目しつつ、急速な社会変化に晒されてきたボツワナに暮らす人々が、自らと社会、環境を再構築する過程を明らかにすること、さらにボツワナの地域住民や研究機関と連携しつつ、彼

らのより良い未来づくりに貢献することを目的として、さまざまな活動を展開してきました。

上記の“Study of future making among the Batswana in contact zones”は、その一環で企画されたもので、ボツワナのコンタクト・ゾーンにおける社会再編、特に（ポスト）狩猟採集民の子どもの社会化と在来知識の再活性化に関する課題について、まずボツワナの（ポスト）狩猟採集民の居住地に近い地方都市 Ghanzi で 10月29日にワークショップを行い、プロジェクト関係者、現地住民、その他の関係者の方々と一緒に議論を行いました。



ボツワナ大学 Dr. Andy Chebanne の開会挨拶



グループワーク後の意見交換

ワークショップの第一部では、まずボツワナ大学の Andy Chebanne 名誉教授と高田が上記の主旨についてのイントロダクションを行い、さらに5名のボツワナ大学の関係者（New Xade 出身でボツワナ大学の大学院で学ぶ Tshisimogo 氏を含む）と2名の京都大学の関係者が個別の発表を行いました。ボツワナ大学と京都大学は、長年教育に関する協力を進めてきています。そうした長期にわたる協力関係を反映して、これらの発表では、ボツワナの遠隔地域やそこで暮らす人々の持続的な発展に研究者がどう貢献できるか、コンタクト・ゾーンにおける言語実践の特徴やその変化、少数派の言語の正書法を定めることに関する理想と現実、ボツワナにおける教育制度の特徴とそれに対するノン・フォーマル教育の潜在的な可能性、これまで見逃されてきた少数派の民族における詩的な言語実践や多様な民話の特徴を記述・分析していくための構想、新しいメディアを通じて民話の物語りを行うことにより在来知識を再活性化する試み、などについての活発な議論が行われました。今後はこの成果を

とりまとめ、学術雑誌『African Study Monographs』の Supplementary Issue として出版することを目指しています。

また、ワークショップの第二部では、(ポスト)狩猟採集民でもある現地住民、ローカル NGO や地方政府のメンバー、ボツワナ大学と京都大学の研究者らが4つのグループに分かれ、「あなたの地域の子どもたちは、非公式な学習環境でどのように学んでいますか?」「あなたの地域の子どもたちは、公式な学習環境でどのように学んでいますか?」「非公式な学習と公式な学習をどのように結びつけることができますか?」「あなたの地域について、他の人に知ってほしいことは何ですか?」といった問いについての意見交換を促すグループ・ディスカッションが行われました。それぞれのグループで活発な議論を行った後は、各グループの代表が他のグループの前でそうした議論を要約し、さらなる意見交換を行いました。この議論の成果は報告書としてまとめ、幅広い関係者に届けると共に今後のコミュニティ開発に活用する方策を探る予定です。



ボツワナ大学 Mr.Tshisimogo の発表

さらに翌日の10月30日には、京都大学のチーム（ワークショップ参加者である野口朋恵さん、石川航大さん、高田を含む）が長年調査を続けてきたフィールドサイトでもある New Xade を上記のワークショップ参加者が訪問するフィールド・エクサカーションを行いました。具体的には、同地でノン・フォーマル教育を推進するイヤ・ガイシ、フォーマル教育を推進するキョエン・プライマリー・スクール、野口さんや高田がお世話になってきた住人の方々の居住プロットなどで、子どもの教育や社会化に関する活動や課題などについての視察と意見交換を行いました。教育活動従事者にとっては、現在進めている活動の特色や成果



ニューカデ村の小学校視察

を知ってもらうこと、研究者にとってはボツワナ内外のコミュニティと比べた場合のニューカデでの教育や社会化をめぐる状況についての理解を深めることにつながったと考えています。

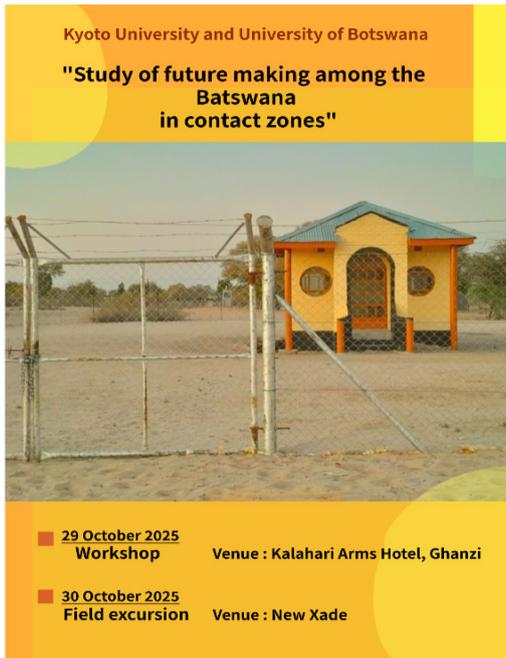
今回のワークショップとフィールド・エクサカーションで得られた知見については、本プロジェクトやその関連のさらなる活動を通じて、一層の深化と発展を達成していくことを目指しています。

* ボツワナ大学の Dr.Maitseo M.M. Bolaane に代わり、Mr. Tshisimogo が発表

* 写真はすべて野口朋恵撮影



ニューカデ村でのインタビュー



PROGRAM

Venue: Kalahari Arms Hotel, Ghanzi

**29 October
2025
Workshop**

**9:00~
Part 1**

Individual presentations

Introduction
Akira Takada (Kyoto University) and
Andy Chebanne (University of Botswana)

Capacitating the youth for Khoisan social development in contact zones: The experience of the San Research Center at UB
Maitseo M. M. Bolaane (University of Botswana)

Contact zones sociolinguistics and cultural dynamics
Andy Chebanne (University of Botswana)

Challenges of orthography and literacy in contact zones: The question of Khoisan languages in contact with Setswana as model of writing
Budzani Gabanamotse-Mogara (University of Botswana)

The role of non-formal education for community development in the ontemporary hunter-gatherer community in Botswana
Tomoe Noguchi (Kyoto University)

Khoisan languages: where is their poetry
Benjamin Lesele Janie (University of Botswana)

Folklore and culture in contact zones: The case of Khoisan communities in Botswana
Rosaleen Oabona Brankie Nhlekisana (University of Botswana)

Revitalization of indigenous ecological knowledge through picture storytelling
Akira Takada (Kyoto University)

**14:00~
Part 2**

Group work involving all participants

**30 October
2025
Field excursion**

Venue : New Xade

This program is financially supported by the JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (S) "Ecological future making of childrearing in contact zones between hunter-gatherers and agro-pastoralists in Africa"

狩猟採集民バカの人々が日本にやってきました!

田中文菜 (九州大学大学院人間環境学研究院)

カメルーン共和国の狩猟採集民バカの人々4名と、ヤウンデ在住のアテンド1名が、2025年7月25日から8月7日まで来日しました。これは2025年大阪・関西万博を契機として実施する、内閣官房事業国際交流プログラムの一環です。まず、関空から沖縄に飛行機で移動しました。沖縄での滞在中は、京都大学アフリカ地域研究資料センターの矢野原佑史氏を中心に、宜野座村でバカの文化と沖縄や宜野座村の文化を学ぶワークショップが開催されました。バカの人々は丸いものを転がして槍で刺す狩りの遊びや歌と踊りなど次々にバカの子どもたちがする遊びを日本の子どもたちに教えてくれました。充実した双方向の文化交流が行われました。そして大阪へと移動し、万博会場では、宜野座村のエイサー団体の子どもたちとバカの歌い手・踊り手・演奏者が共演し、沖縄とカメルーンの歌と踊りが同じ舞台上で響き合う貴重な機会となりました。歌と踊りの輪に宜野座村の獅子舞が登場すると、バカの人々は、ジェンギ(ラフィアヤシで扮した森の精霊)のようだと喜んでいました。

基盤Sの活動としては、宜野座村内の公園で、森で暮らす狩猟採集民バカの男性(42歳)と都市ヤウンデで暮らす男性(39歳)に、Tobii社のアイトラッキング機器「Glasses 3」をかけてもらい、同一散歩道を歩いてもらいました。都市在住の男性が約3分で歩いてきたところを、バカの男性は約15分かけて歩きました。視線行動を比較したところ、都市在住の男性は道や建物、鳥居など人工物への視線移動が中心で、バカの男性は道端の茂みや木の幹、木陰など自然物の細部を中心に丁寧に観察していました。両者の注視傾向の違いを一般化するには慎重さが必要ですが、「どこを」「どれだけの時間」見ているのかが可視化されるアイトラッキング機器を用いた民族誌研究の可能性が示されました。

さらに、基盤Sの活動として、今回バカの一人として来日したメッセ氏(NGO OKANI代表)と高田明氏との間で打ち合わせが行われ、カメルーン東南部熱帯雨林地域に保育園が設置され、パイロット・スタディが開始される見通しが立ったようです。



熱帯雨林在住のバカの男性



都市ヤウンデ在住の男性

アイトラッキング機器「Glasses 3」によるほぼ同じ場所での視線 (○は視線先)

海外派遣報告 2025.8-9

高田明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)

派遣先: ボツワナ / 派遣期間: 2025/08/07 - 09/06

主にボツワナの首都ハボローネ、ニューカデ村などを訪問し、アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築にかかわるフィールドワークを行った。



Andy Chebanne ボツワナ大学名誉教授



児童福祉・基礎教育省の入っている Tirelo House の外観



夜明けのニューカデ



マウンの空港

詳細: 派遣報告一覧



主な業績

論文

原田英典. 2025. グローバル・サニテーションの実現に向けた分散型生活衛生インフラの役割. 『廃棄物資源循環学会誌』 36(3). 209-215. <https://doi.org/10.3985/mcwmr.36.273>

Moonkawin, J., Schneider, M.Y., Fujii, S., Yasui, H., Nguyen, V., Pham, A.N., Echigo, S., Harada, H. 2025. Impact of GHG mitigation measures in sanitation service chains: A focus on septic tanks and sewers. *Water Research*, 288. Part A. 124618. <https://doi.org/10.1016/j.watres.2025.124618>.

中川 裕. 2025. SPE とクリック音韻分析の論争. 大谷直樹・中川 裕・野元裕樹・長屋尚典 (編) 『言語研究に潜む英語のバイアス』 109-130. ひつじ書房.

Nakagawa, H. 2025. Frication noise in edentulous clicks. *Areas, families, and pools aplenty: a Festschrift for Tom Güldemann*, 59-66. <https://doi.org/10.18452/32632>

Noriko Toyama. 2025. The Association Between Pointing and Walking in Infants: A Longitudinal Observational Study. *Infancy*, 30(4). E70037. <https://doi.org/10.1111/inf.70037>

Schlingloff-Nemecz, L., Stavans, M., Revencu, B., Hashiya, K., Kobayashi, H., Csibra, G. 2025. Children's trait inference and partner choice in a cooperative game. *Child Development*, 96(4). 1458-1473. <https://doi.org/10.1111/cdev.14247>

外山紀子, 小島康生, 石島このみ. 2025. 民俗芸能の継承過程: 物理的・社会的環境の役割. 『こども環境学研究』印刷中.

書籍 (単著, 編著)

高田 明. 2025. 『ブッシュマンの子育て: 狩猟採集社会の自然誌』ミネルヴァ書房.

高田 明. 2025. 相互行為の人類学による感情へのアプローチ: 人類学の立場から. 植野仙経・佐藤弥・鈴木貴之・村井俊哉 (編) 『感情が作られるものだとしたら世界はどうなってしまうのだろうか』 284-299. 金芳堂.

Takada, A. 2025. 2.4. A history of socialization approach for cultural research of childhood learning. In S. Lew-Levy & S. Asatsa (eds.), *A field guide to cross-cultural research on childhood learning: Theoretical, methodological, practical, and ethical considerations for an interdisciplinary field*. Cambridge, UK: Open Book Publishers, 34-36. <https://doi.org/10.11647/OBP.0440>

Takada, A. 2025. 3.7. A language socialization approach for studying (social) learning in childhood. In S. Lew-Levy & S. Asatsa (eds.), *A field guide to cross-cultural research on childhood learning: Theoretical, methodological, practical, and ethical considerations for an interdisciplinary field*. Cambridge, UK: Open Book Publishers, 87-89. <https://doi.org/10.11647/OBP.0440>



Takada, A. 2025. 4.10. Conversation analysis approach. In S. Lew-Levy & S. Asatsa (eds.), *A field guide to cross-cultural research on childhood learning: Theoretical, methodological, practical, and ethical considerations for an interdisciplinary field*. Cambridge, UK: Open Book Publishers, 146-149. <https://doi.org/10.11647/OBP.0440>

大谷直樹, 中川 裕, 野元裕樹, 長屋尚典. 2025. 『言語研究に潜む英語のバイアス』 ひつじ書房.

Yamauchi, T. & Takada, A. (eds.). 2025. Special Issue: Lifestyle and sanitation of indigenous populations in Cameroon. *African Study Monographs, Supplementary Issue*, 63, 1-104. <http://hdl.handle.net/2433/294160>

その他刊行物

Hays, J., Dounias, E., Ninkova, V. and the Research & Advocacy Group for Hunter Gatherer Education. 2025. Sustainable education should include Indigenous knowledge. *Nature Human Behaviour*. <https://doi.org/10.1038/s41562-025-02288-1>

基調講演・招待講演

橋彌和秀. 2025. コミュニケーションの認知システム基盤 (公募シンポジウム指定討論). 日本心理学会第 89 回大会. 東北学院大学. 2025 年 9 月 6 日.

原田英典. 2025. アジア・アフリカの水・衛生とサニテーションの意義. 日本学術会議近畿地区会議学術講演会「社会の持続可能性と水問題」. 京都大学. 2025 年 9 月 13 日.

原田英典. 2025. アフリカの水と衛生の課題に挑戦する. 京都大学オープンキャンパス 2025. 京都大学. 2025 年 8 月 8 日.

原田英典. 2025. 課題解決型水・衛生研究を通じて工学者が参加型と文理融合を考える. 第 10 回 Short talk, 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科 基盤研究 (S) アフリカ狩猟採集民・農牧民のコンタクトゾーンにおける子育ての生態学的未来構築. 京都大学. 2025 年 8 月 1 日.

Harada, H. 2025. SPLASH and its participatory approach for WASH improvement. 13th Zambia Water Forum and Exhibition (ZAWAFE). Lusaka, Zambia. 10-12 June 2025 (11 June).

Sai, A. Yamauchi, T. 2025. Elucidating WASH Attitude and practice Among Baka Hunter-Gatherers in Cameroon. WASH with a focus on MHH to foster school and community health nursing. Dhaka, Bangladesh. 21 July 2025.

Takada, A. 2025. Comment to Symposium: Sub-Saharan African Children's Play from the Perspectives of Mathematical Enculturation and Interactions. Paper presented at the 36th Annual meeting of Japan Society for Africa Educational Research, Kanto Gakuin University, Yokohama, Japan. 11-12 October 2025 (11 October).

山内太郎. 2025. 循環するケア: 地域共創によるサニテーションとプラネタリーヘルスの交差点. 日本看護研究学会. 2025 年 8 月 30 日 -31 日 (8 月 30 日).

山内太郎. 2025. Sanitation for All: 地域に根ざしたトイレの未来を考える. アカデミックファンタジスタ. 札幌開成中学校. 2025 年 9 月 17 日.

主な業績

Yamauchi, T. 2025. Co-Creation of Sanitation with Children, Youth, and Communities: Lessons for Post-SDGs. 9th International Symposium of Public Health. Surabaya, Indonesia. 24 September 2025.

Yamauchi, T., Nyambe S, Sai A, Chitindi N, Somi J, Mwelwa S. 2025. Participatory Action Research for peri-urban Water, Sanitation and Hygiene co-creation: The PAR-WASH Project. Zambia Ministry of Education Update Meeting. Lusaka, Zambia. 17 October 2025.

渡邊麻友. 2025. なぜナミビアで研究しているの?—福音ルーテル教会と女性牧師—. 日本福音ルーテル聖パウロ教会・女性会. オンライン. 2025年9月28日.

学会発表・学術報告等

Kameya, Y., Sai, A., Yamauchi, T. 2025. Perceptions and Barriers of Menstrual Health and Hygiene in School and Home Settings in Yaoundé, Cameroon. 第7回 FHS 国際シンポジウム (7th FHS International Conference). 北海道大学. 2025年10月24日.

亀谷 有莉奈, 佐井 旭, 山内太郎. 2025. カメルーン都市部の女子学生における月経保健衛生: 学校設備・世帯収入・母親の教育水準が与える影響. 第90回日本健康学会総会. 北海道大学. 2025年10月11日-12日 (10月11日).

Kameya, Y., Sai, A., Yamauchi, T. 2025. Influence of Educational Environment, Economic Status, and Parental Education on Menstrual Health and Hygiene Among Female Students in Yaoundé, Cameroon. International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2025. Online. 30 September 2025.

新田博司, 宇土裕亮, 茶谷研吾, 橋彌和秀. 2025. 幼児期における自己顔処理の特異性. 日本赤ちゃん学会第25回学術集会. 相模女子大学. 2025年8月22日.

Sai, A., Yamauchi, T. 2025. "It Was a Kind of Advice": Menstrual Knowledge and Attitudes Among Indigenous Men in Cameroon. 第90回日本健康学会総会. 北海道大学. 2025年10月11日-12日 (10月11日).

Sai, A., Yamauchi, T. 2025. Menstrual Conversations Among Indigenous Men in Cameroon: A Qualitative Exploration of Menstrual Knowledge and Attitude Among Baka Hunter-gatherers. International Society for Sanitation Studies Annual Conference 2025. Online. 30 September 2025.

Sai, A., Yamauchi, T. 2025. Menstrual Health and Hygiene in Cameroon: Focusing on Urban Dwellers and Hunter-gatherers. Sustainability Research & Innovation Congress Africa Satellite Event. Nairobi, Kenya. 4-6 June 2025 (4 June).

Takada, A. 2025. Playful imitation of ritualistic activities among the children of !Xun in north-central Namibia. Paper presented at international conference, Transmission and learning: How do children engage in ritualised daily practices and rituals? University of Liege, Place du XX aout 4000 Liege, Belgium. 17-18 November 2025 (18 November).

Takada, A. 2025. Revitalization of indigenous ecological knowledge through picture storytelling. Paper presented at Kyoto University and University of Botswana, "Study of future making among the Batswana in contact zones", Kalahari Arms Hotel and New Xade, Botswana. 29-30 October 2025 (29 October).

Takada, A. 2025. Kyoto University and University of Botswana, "Study of future making among the Batswana in contact zones", Kalahari Arms Hotel and New Xade, Botswana. 29-30 October 2025. (Organizer)

Takada, A. 2025. Distinctive social situations related to mental health in African countries. Paper presented at Symposium 19, "Africa symposium: Working with government health systems to reduce the treatment gap for mental disorders in Africa" at 21st Pacific Rim College of Psychiatrists and 7th World Association of Cultural Psychiatry Joint Congress 2025 Tokyo, Tokyo, Japan. 25-28 September 2025 (25 September). Abstracts, p.291.

高田 明. 2025. 第13回 子育ての生態学的未来構築コキアム: エチオピア村落の教育とジェンダーをめぐる民族誌. Zoom ウェビナーと対面研究会のハイブリッド方式. 京都大学. 2025年7月24日. (オーガナイザー)

高田 明. 2025. 第12回 子育ての生態学的未来構築コキアム: 牧畜民マサイの子どもの民族誌遊びと仕事から織りなす子ども時代の学習エコロジー. Zoom ウェビナーと対面研究会のハイブリッド方式. 京都大学. 2025年6月27日. (オーガナイザー)

Takada, A. 2025. Nurturing children's sound physical and moral development in (post-)hunter-gatherer society: Preliminary research findings among the G!ui and G!lana in central Botswana. Paper presented at the panel "Reuniting body, mind, and environment: An anthropological take on children's total health", the WAU Congress 2025, Antigua, Guatemala. 3-8 November 2025 (5 November). Program, p.109.

Takada, A. 2025. Reuniting body, mind, and environment: An anthropological take on children's total health, the WAU Congress 2025, Antigua, Guatemala. 3-8 November 2025 (5 November). Program, pp.109-110. (Organizer)

Yamauchi, T., Nyambe, S., Sai, A., Zaman, NU., Sambo, J., Kameya, Y., Rifqi, MA., Zgambo, J. 2025. Improving Menstrual Hygiene Management in Asia & Africa. 2025 Women's Health Innovation Equity Forum. 11-12 October 2025 (11 October).

Yamauchi, T., Nyambe, S., Kataoka, Y., Sambo, J., Zgambo, J. 2025. Investigation of Knowledge, Risk Perception, Efficacy of Solutions using Participatory Action Research in Water and Sanitation Planning. SPLASH 2025FY Update Meeting. Online. 29 July 2025.

Yamauchi, T. 2025. Exploring WASH and MHH Realities in African Communities: Perspectives from Cameroon and Zambia. Sustainability Research & Innovation Congress Africa Satellite Event. Nairobi, Kenya. 4-6 June 2025 (4 June).

Yamauchi, T., Sutherland, C., Masamba, W., Michelo, C., Nyambe, S., 2025. Co-creation of a Community-based Water, Sanitation and Hygiene model with children and youth. Africa Japan Collaborative Research Project Workshop 2025. Nairobi, Kenya. 2-3 June 2025 (3 June).

Zaman, MNU., Sai, A., Yamauchi, T. 2025. Gender-Inclusive Education for Menstrual Health and Hygiene among Nursing Students in Bangladesh: A Mixed-Methods Study. 第7回 FHS 国際シンポジウム (7th FHS International Conference), 北海道大学. 2025年10月24日.

渡邊麻友. 2025. ナミビア福音ルーテル教会で語られるジェンダー観—平等か差異かを超えて—. 2025年度日本女性学会大会. 立教大学. 2025年6月10日.

主な業績 / 受賞 / 関連イベント

新聞記事等

原田英典. 2025. 途上国のトイレ問題 後回しにしない. 朝日新聞. 2025年8月26日.

原田英典. 2025. 広がるコレラ, 亡くなる子 トイレ問題と20年向き合う研究者の思い. 朝日新聞 (デジタル版). 2025年8月22日.

SATREPS/SPLASH Project. 2025. なぜコレラ止められない 追いつかないインフラ, 「緊急に対処必要」. 朝日新聞 (デジタル版). 2025年8月12日.

Nyambe, S. 2025. City TV Breakfast Show, Wellness Spot segment: "Wellness Begins with Water: What WASH Has to Do with Our Daily Health". City TV, National TV Channel, Zambia. 28 June 2025.

受賞

Zgambo, J., Nyambe, S., Yamauchi, T. 2025. Best Poster Award. 第7回 FHS 国際シンポジウム (7th FHS International Conference), 北海道大学, 24 October, 2025.

Sugiyama, A., Yoshida, Y., Harada, H., Banda, K., Miura, T., Kadoya, S., Asada, Y. 2025. WET Excellent Presentation Award. Water and Environment Technology Conference. Nagoya, Japan. 5-6 July 2025.

子育ての生態学的未来構築コロキウム

第11回 2025年5月2日 (金)

対面・Zoomによるオンライン開催 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

講演者: Pamela Block 教授 (Department of Anthropology, Faculty of Social Science, University of Western Ontario, CA)

ディスカッサント: 阿毛香絵 准教授 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

"Emancipatory Disability Research in Brazil: A Legacy from Participatory Anthropology, Disability Studies, and the Occupational Therapy without Borders Movement"

第12回 2025年6月27日 (金)

対面・Zoomによるオンライン開催 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

講演者: 田 暁潔 准教授 (筑波大学体育系)

ディスカッサント: 野口朋恵氏 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

「牧畜民マサイの子どもの民族誌: 遊びと仕事から織りなす子ども時代の学習エコロジー」

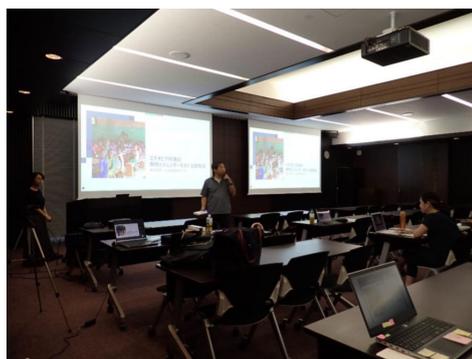
第13回 2025年7月24日 (木)

対面・Zoomによるオンライン開催 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

講演者: 有井晴香 准教授 (北海道教育大学)

ディスカッサント: 高村 (井上) 満衣氏 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

「エチオピア村落の教育とジェンダーをめぐる民族誌」



第14回 2025年11月14日 (金)

139th KUASS (Kyoto University African Studies Seminar), 京都大学人と社会の未来研究院および京都大学研究連携基盤未踏科学 (共生共進化) ユニット共催

対面・Zoomによるオンライン開催 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

講演者: Federico Rossano 博士 (UCSD 認知科学部 准教授 / 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 特別招へい准教授)

ディスカッサント: 山本真也 博士 (人と社会の未来研究院 教授)

"The data we have, the data we need"

CCI データセッション

第120回 2025年4月25日 (金)

対面・Zoomによるオンライン開催 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

発表者: 高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

「飼育下のチンパンジーと人の相互行為における要請 (request)」

第121回 2025年5月30日 (金)

対面・Zoomによるオンライン開催 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

発表者: 高田 明 (京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)

「飼育下のチンパンジーと人の相互行為における要請 (request)」

関連イベント

第122回 2025年6月17日(火)

対面(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
発表者: 林 耕次(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
「1997-1998 期における和歌山県太地での「イルカ追い込み漁」の記録より」



第123回 2025年7月8日(火)

対面・Zoomによるオンライン開催(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
発表者: 齋藤美保(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
「動物の社会関係を定量的に表す〜キリンを対象とした動物行動学的研究〜」

第124回 2025年7月17日(木)

Zoomによるオンライン開催
発表者: 杉山由里子(就実大学人文学部)
「蚕糸業における供養塔の立ち上がり―"供養の思想"を問い直す―」

第125回 2025年7月21日(月)

Zoomによるオンライン開催
発表者: 島田将喜(帝京科学大学生命環境学部)
「私と野生動物とは相互理解したのか?」

第126回 2025年7月26日(土)

Zoomによるオンライン開催
発表者: 山本始乃(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 修了生)
「酪農の社会史」

第127回 2025年7月29日(火)

対面・Zoomによるオンライン開催(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
発表者: 河本(小川) 裕子(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員)
「焼畑を通じた人と動物の共存」

第128回 2025年10月17日(金)

対面・Zoomによるオンライン開催(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
発表者: Federico Rossano(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 特別招へい准教授)
"An interactional approach to comparative cognition"

CCI ショートトーク

第8回 2025年4月25日(金)

対面・Zoomによるオンライン開催(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
講演者: 河本(小川) 裕子(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 研究員)
「技能・知識継承への視線計測技術の活用―焼畑用地の選定を事例に―」

第9回 2025年7月1日(火)

Zoomによるオンライン開催
講演者: 安岡宏和(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授)
「生態人類学の構想」

第10回 2025年8月1日(金)

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS),
下痢リスク可視化によるアフリカ都市周縁地域の参加型水・衛生計画と水・衛生統計(SPLASHプロジェクト)共催
対面・Zoomによるオンライン開催(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科)
講演者: 原田英典(京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授)
「課題解決型水・衛生研究を通じて工学者が参加型と文理融合を考える」



事務局より

Newsletter の第 5 号をお届けします。特集記事として、10 月 29-30 日にボツワナで開催された現地ワークショップおよびフィールド・エクスカージョンの様子をお届けしました。2025 年 10-12 月の予定で、Federico Rossano 博士（UCSD 認知科学部・准教授／ASAFAS 特別招へい准教授）が来日しており、

「コンピュータ・ビジョン・ツールを用いた霊長類の社会性に関する縦断的研究」について子育ての生態学的未来構築コロキウムや CCI データセッションでもご発表いただきました。

表紙を語る



狩猟採集民でありボツワナの言語的少数派としても知られるグイ／ガナは、政府の定住政策により、約 30 年前に急激な再定住を迫られました。なかでも、今回のワークショップの中心テーマでもあったフォーマル教育は、当該社会の定住化過程において、特に大きな影響を与えてきました。ボツワナでは、小学校の教授言語として、英語とツワナ語（ボツワナの多数派の言語）のみが採用されており、最近まで少数派の言語による教授は認められていませんでした。そのため、他地域から赴任してきた教員と、グイ／ガナの子どもの間の意思疎通をめぐる課題は深刻であり、初等教育以降のライフステージにおいてもその影響は根強いものとなっています。

今回のワークショップ 2 日目のエクスカージョンでは、2007 年にグイ／ガナの定住地

ニューカデに導入されたノン・フォーマル教育機関イヤ・グイシ・コミュニティ学習センターも訪問しました。現地ファシリテーターからは、取り組みの現状や課題が共有され、参加者との意見交換がなされました（裏表紙の写真参照）。施設の規模やフォーマル教育との接続に関する課題は残る一方で、教授活動における母語の使用や子ども自身の興味・関心が尊重された学習環境など、既存のフォーマル教育が抱える課題を再考する上でのヒントも再確認されました。こうしたノン・フォーマル教育という新たな実践に学びながら、子どもたちの望ましい社会化＝未来の構築に向けて、今後も住人の方々や研究者との対話を続けていきたいと思います。

ワークショップを終えて
2025 年 10 月 29 日撮影
撮影者：野口 朋恵



ニューカデのイヤ・ガイシ・コミュニティ学習センター（2025年10月30日）撮影者：野口朋恵

Newsletter no.5

November 2025

2025年11月30日発行

編集・発行：高田明（研究代表）

E-mail: cci.takada.lab@gmail.com

